《巻頭言》

第14回日本禁煙学会学術総会開催報告
～皆様のおかげです、福島からの発信！～

第14回日本禁煙学会学術総会実行委員長、日本禁煙学会理事、
福島県医師会常任理事、いわき市医師会副会長、みちや内科胃腸科理事長
齊藤道也

禁煙学会関係各位の皆様、今回の学術総会開催におきましては物心両面からのご協力に厚く御礼申しあげます。

福島からの発信

2020年11月14日秋晴れのもと、福島県で初めての開催となりました第14回日本禁煙学会学術総会の大会テーマ：全ての人にTobacco-freeな未来を！～福島からの発信～を400名のご参加によるビッグパレットふくしまでの会場開催、さらにWEB開催は12月4日までの3週間1,000名余の参加登録のもと盛況のうちに会期を終了させていただきました。

福島大会は、福島県医師会および各郡市地区医師会、福島県歯科医師会、福島県薬剤師会、福島県看護協会の共催、福島県、公立大学法人福島県立医科大学、県内の医療関係団体が一丸となっての開催であり、この福島県においても近年稀に見る学術総会となりました。本来なら多くの皆様と賑やかにお会いできることが私どもの願いでしたが、COVID-19拡大の影響から、会場参加を400名に抑え、全ての学術的プログラムを全国へWEB配信し、またそのプログラムのほとんどをオンデマンドで視聴できる日本禁煙学会学術総会としては初めての、会場にお越しになれない講演者・聴講者と会場参加者をつなぐHYBRID開催となりました。全てをオンデマンドでの目標がありましたが、セッションは演者のご意向にそってその1名もしくは団体が希望されない場合は、バランスが取れないためオンデマンドにできない残念なプログラムもございました。しかし会場開催後も継続的に多くの視聴があり、勉強を繰り返す、見られなかったプログラムを見る、他職種の部会の内容を知ることにより自分の活動に生かす、これらはダイバーシティーのニーズを生かしたニューノーマル時代のこれからの学会のあり方を模索するものであったと思います。今後開催を重ねさらにブラッシュアップされていくものと期待しております。

写真1　プレナリーセッション

COVID-19拡大と学術総会準備

COVID-19第三波の動きを見ておりますと、11月第2週の今回の開催日程はぎりぎり開催可能な線であったと思います。そしてその後も会場参加者関係者には感染者の報告が出ておらず胸を撫で下ろしております。

今年1月に初めてSARS-CoV2による感染症の報に接し、その後あれよあれよという間に緊急事態宣言が発出され多くの学会が延期、中止を余儀なくされました。私どもの学術総会は11月と多少開始期日に余裕があり、延期、中止、通常開催、WEB開催、HYBRID開催と多くの可能性を探りました。今でこそHYBRID開催という言葉も多く

のシーンで多用され馴染みましたが、初めて聞いた時には『なんだ？それ！』といった状態でした。

20代から60代の30名の多士多彩な同士による実行委員会は1年前の2019年に発足、小回りの利く8名の執行部会議から全体会議と合計17回の基本的には直接会っての会合を持ちました。医師、歯科医師、薬剤師、看護師と職性によって活動的な4名の副実行委員長と事務局長が多くの実務を誠実にリストアップし実行していきました。

当初はタバコの害やなぜ今福島で学会活動が必要なのかといったことを研修し、同じ目線で活動が進むように多くの学びの時間が必要でもありました。つまりこの福島での学術総会開催後に福島の各地域に多くの活動リーダーを輩出し、福島をタバコ問題推進の先進地域にすること!! これも今回学術総会を開催するもう一つの目標としておりました。

会場開催と同時にWEB開催することは、段取り、予算で言うと実際かなりの煩雑さ、ボリュームとなりますが、タイムテーブルに載せてその時期にできることをひとつひとつこなすしかありませんでした。そして初夏ごろから散見されるようになった他学会WEB開催におけるトラブル頻発を見るにつれ不安は募るばかりでしたが、今回大きな問題なく当日から会期終了まで配信し続けられたのは東北共立さんという強力なコンベンション実行パートナーが大きな力を果たしたことは事実です。

福島県医師会の強い関わり

また受動喫煙防止の色であるイエローグリーンキャンペーンの重要性を福島県医師会長でもある佐藤武寿大会長が認識、早くから福島県医師会が先頭に立って各方面に働きかけました。イエローグリーンリボンバッジの作成そして内堀雅雄福島県知事との面会が実現、福島県が『大切なヒトをタバコの煙から守りたい！受動喫煙防止！』を一緒に推進していただけることとなり、さらに大きな活動の輪が広がりました。

学術総会プログラム

特別企画：『福島からの発信』として3つの特別プログラムがありました。発信1は『東日本大震災に学ぶコロナ禍の健康管理と笑いの効果』として福島県立医科大学医学部疫学講座大平哲也教授による大会長指定講演、実際に笑える楽しい内容でした。発信2は看護学生禁煙教育プレゼンコンテストでした。県内の4校の看護学校から改訂4版禁煙学をベースに6題の禁煙教育を題材とした発表をしていただき、審査員による審査、表彰があり、いずれも真摯に取り組んだ甲乙つけがたい発表でした。タバコに関する問題意識の高い看護学生が今後多数誕生するものと期待できます。そして発信3は最終のプレナリーセッションとして各分野の先進的演者による福島からタバコのない社会作りへの『未来への提言』がありました。

さらにCOVID-19重症化と喫煙の密接な関連を始めとしたタイムリーな研究や情報発信、禁煙治療や新型加熱式タバコを深く理解するシンポジウム、最新のオンライン診療や教育現場でのタバコの対応を学ぶワークショップ、さらに今話題の三次喫煙問題など盛り沢山な内容に加え、今まで部会員以外にはあまり馴染みのなかった歯科、薬剤師、看護各部会のセッションも聴講が可能でありました。詳しくは下記の抄録集のリンクをぜひご覧ください。

写真2　開会式

写真3　実行委員メンバー

今後の課題

全国的に健康寿命の延伸が注目され、さまざまなアクションが展開されているなか、福島県の成人の生活習慣病の状況（全国のワースト順位）は、高血圧症3位・脂質異常症11位、糖尿病12位で、死亡率順位でも心筋梗塞1位、脳梗塞7位と大変残念な状況で、さらに喫煙率は全国3位となっており、タバコと疾病や死亡率との強い関係性を禁煙学会として繰り返し訴えてきた経緯からも、この地で日本禁煙学会学術総会が開催できたことが、診療や教育のみならずこれからのこの地の医療政策に活かされ、福島県民の健康意識の向上に繋がることを期待しています。

現在、福島県議会自民党が中心となって受動喫煙防止条例制定の検討（2021年2月県議会上程の予定）がなされております。その内容はともあれ、この総会開催と同時期に多くの人々が動き、議論し、条例が実現していく様を目の当たりにして、いかに継続的な活動をさらにこの地で実践し続けるか、今福島の我々は問われていると思います。

来年の大会こそ

このコロナ禍がどのように推移していくのか現状先が読めませんが、閉会式では次の大分大会長の北野正剛大分大学学長、副実行委員長である工藤欣邦大分大学保健管理センター長に実行委員会フラッグをお引き継ぎいたしました。禁煙学会は作田理事長の舵取りの結果2020年11月末時点会員数は4,700名以上に大きく成長してまいりました。しかし学術総会への参加者は、毎回その2～3割にとどまるようです。次回風光明媚な大分において、多くの皆様と少しでも近いソーシャルディスタンスと笑顔で、お会いできる状態になっていることを祈っております。来年こそ是非大分大会でお会いいたしましょう。

写真4　ポスターとイエローグリーンリボンバッジ

福島大会へのご参加、ご協力誠にありがとうございました。

福島学術総会ホームページ
http://www.tohoku-kyoritz.jp/jstc2020/
福島学術総会の抄録集
http://www.tohoku-kyoritz.jp/jstc2020/pdf/jstc2020.pdf